



はちのす

木戸小学校学校だより

令和6年9月9日

学力調査の結果のお知らせ

日ごろより、当校の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。今年度を実施した2つの学力調査について、結果を報告します。

◇全国学力・学習状況調査（6年生対象）

調査は大きく分けて、学習状況を見る調査と、生活習慣や学習環境などを見るアンケート調査があります。

○教科に関する調査

【出題範囲】原則として調査する学年の全学年までに含まれる指導事項

【出題内容】下記(1)と(2)を一体的に問う。

- (1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- (2)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

○生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査。

結果分析から見える成果と課題、今後の対策について以下に示します。

	木戸小	新潟県	全国	全国比
国語	68	67	67.7	0.2
算数	68	61	63.4	4.6

【本校児童の調査結果から】

国語	【成果が見られたところ】 ・漢字を正しく表記する。 ・物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 【課題が見られたところ】 ・目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書き表し方を工夫すること。 ・主語と述語の関係を捉えること。 ・資料を分類したり関係づけたりすること。	【今後の取組】 ・必要条件を満たした文章を書くために、練習をする。 ① 質問で何を聞かれているか問題文を把握する。 ② 条件を把握する。 ③ 自分の意見を考え、まとめる ・文の中で、どの言葉が主語で述語なのか復習する。 ・複数の資料から総合的に言えることを考えたり、それぞれの資料を対比したりして説明する。
算数	【成果が見られたところ】 ・数量の関係を□を用いた式に表すことができること。 ・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。 【課題が見られたところ】 ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができること。 ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができること。	【今後の取組】 ・問われていることについて図や表などを活用することで、問いの内容を正しく把握しやすい。すぐに解答を決めすぎないように面倒がらずに可視化する作業を授業で取り入れていく。 ・円グラフのめもりを正しく読むこと、割合の出し方など今後も授業内容で触れていく機会があるので丁寧におさらいをし、活用する。

児童質問紙調査から	【成果が見られたところ】 ・自分にはよいところがあると思う割合が全国を上回っている。 ・友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。 ・学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器で調べたり、学習を進めたり、上手に活用している。 【課題が見られたところ】 ・新聞を読んでいる児童が少ない。	【今後の取組】 ・国語や算数などの学習に対して前向きに取り組む姿勢が高い。「よくわかる」と回答した児童の割合も全国を大きく上回り、授業中のやる気が成果をあげている。 ・ICT を活用した授業を毎日取り入れていることで、自分の考えを深めたり、意見を交換したりしやすい環境になっている。今後も ICT 機器を活用していく。 ・新聞や読書など活字離れが気になる。読書の時間や朝読書を定期的に設定したり、読み聞かせをしたり活字に触れる機会や興味を高める機会を取り入れていきたい。

◇NRT標準学力調査（2～6年）

4月に、2年生以上でNRTも実施しました。国語・算数とも平均以下の学年が昨年度より増えました。個々の結果は、5月の個別懇談会で学級担任より渡してあります。

※偏差値は、小数第二位を四捨五入。全国の偏差値平均を「50」としています。

学年	国語	算数
2	48.6	50.2
3	48.9	49.4
4	47.4	49.1
5	49.1	45.3
6	50.9	51.0

	課題	今後の取組
2年	・「読み返してよいところを見つける」ことが苦手である。 ・「時刻の読み方」を正しくできなかった。	・「書いたら、見直そう」で、ワークシートを使い、書いたものの見直しやよりよい書き足しについて、ていねいに指導する。 ・「時こくと時間（1）」「1000までの数」の復習プリントを用意し、学習内容の定着を図る。
3年	・「話の内容の大体をとらえる」「重要な語や人物の行動をとらえる」が低かった。 ・「長さ、かさ」の単位と単位の間隔を正しく捉えていない。	・10月、11月の物語単元で「話の内容をとらえたり、人物の行動をとらえたりできるよう指導をする。 ・単元「重さ」では、mg, g, kg, tの単位と関係が分かり、目的に応じて単位を選んだり、適切な計器を選んだりすることや考える力を養えるように指導をする。
4年	・「物語の詳細を読み取って解釈する」で正しく答えることができなかった。 ・「測定・データの活用」が低い。	・「ごんぎつね」では、登場人物同士の心情の変化を、書かれている叙述を根拠にして想像しながら解釈する力について指導していく。 ・「しりょうの活用」の単元では、グラフから分かる結論を考察する活動を通して、グラフの読み取り方について指導していく。
5年	・「他の文章と関連付けて正しく読むこと」が低かった。 ・「正しく素早く四則計算する」ことが低かった。	・「和の文化を受け継ぐ」で複数の資料を重ね合わせながら読ませる。 ・計算場面では、時間を設定して計算させる。また、既習の計算方法を何度も振り返る活動をする。
6年	・「目的に応じて工夫して書く」が低かった。 ・「整数と小数のしくみ」が低かった。	・目的や意図に応じて、効果的に伝える「発見、日本文化のみりょく」において、一番自分が伝えたいことは何か、日本文化の良さを伝えるためにはどんな方法があるか考えて書く指導をする。 ・整数と小数の領域では、位取り板などを用いて、小数の仕組みや、10倍、100倍、十分の一、百分の一などの大きさの数の作り方を丁寧におさらいしていく。

これらの結果を受けて、今後の学習の方向性について職員研修を行いました。子どもたちの傾向を分析し、明らかになった課題については、定着が図られるように対応しています。また、全学年に共通した傾向から、上記のような取組を進めていきます。今後も木戸っ子に学ぶ意欲と課題を解決できる力を育てられるように、努めていきます。

文責 研究主任 鈴木 健太郎